

海外で見聞を広める、交流する

～平成28年度「海外研修修学旅行」～

専門学校静岡電子情報カレッジ

～アメリカ西海岸サンフランシスコ&ロサンゼルス～

11月28日(月)～12月3日(土)

＜研修概要＞

- ・ 現地IT先端企業での講義
- ・ 視察、現地IT College視察

世界を肌で感じた6日間

ICT情報システム学科・ゲーム応用学科 学科長 早崎 賢治
今年度の「アメリカ西海岸・海外研修修学旅行」は、電子情報の学生が1、2年生ともに参加しました。学年の垣根を越えて実りのある研修になった、と感じています。天候にも恵まれ、楽しい思い出も沢山できました。

シリコンバレーでは、現地で最新ITビジネスのコンサルティング、トレーニングを行なっている米国Just Skill社・社長の山谷正己氏(名桜大学客員教授)から、クラウドやIoT等の最新動向について講義を受けました。エンジェル投資家やベンチャーキャピタル、クラウドファンディングなど若き起業家を育てる充実した環境があることも伺い、「日本を飛び出して国際社会で活躍したい」と感じた学生も多かったことと思います。

また、ユニバーサルスタジオ・ハリウッドでは、人気のハリー・ポッターをはじめ、ほとんどのアトラクションを待ち時間なく楽しめるなど幸運にも恵まれました。最新CG技術や、実際の映画制作スタジオ・使用設備などに触れることもでき、大きな刺激になりました。

他にもIT先端企業の視察や見学など、世界を肌で感じ、多くのことを学ぶことができました。

このような貴重な研修の機会を与えてくださった理事長・校長先生をはじめ諸先生方、保護者の皆様により感謝申し上げます。



1月の行事

1日(日) 元旦
5日(木) 仕事始め
6日(金) 後期再開
9日(月) 成人の日
10日(火) 2CP「保育実習Ⅱ」(保育所) (～1/23)
16日(月) 1TW・CW「第1期実習」(～1/27)
21日(土) オープンキャンパス 13:00-15:00
23日(月) 1CP 「保育実習Ⅰ」(保育所) (～2/4)
26日(木) J検定(CBT)
27日(金) 硬筆書写検定

膨らんだ「アメリカで起業する」という夢。その一歩を踏み出す!

ICT情報システム学科 2年 高橋 卓也
今回のアメリカ西海岸研修旅行での最大の収穫は、「アメリカで働く、もしくは起業する勇気とモチベーションを得られた」ことだ。

研修2日目、Just Skill社(カリフォルニア)代表である山谷さんによる「シリコンバレー・セミナー」が行われた。このセミナーでは、シリコンバレーの最新動向、毎年数多くの企業が新しく創業される仕組みや、シリコンバレーで成功するための法則などから、私たちの目前に迫る就職に向けて仕事をする上での心構えを教えてくださいました。山谷さんが特に私たちに伝えたかったと思うのは、次の3つ。①学習を日々の生活に溶け込ませ、持続的な学習、成長を行なうこと。②常識にとらわれず、想像力(創造力)を働かせること。③失敗を恐れず、可能性を信じること。この3つだ。そして、これらの行動をとるすべての人に、アイデアや夢、理想を実現する可能性を与えてくれるのが、シリコンバレーという地である。

山谷さんのお話を聞けば聞くほど、私が元々抱いていたアメリカで起業することへの漠然とした憧れは「現実的な目標」へと変わっていき、今では、もうすでにアメリカで起業するための行動も少しずつ始めている。ここまでのやる気を起こさせてくれた山谷さんに感謝すると共に、今回教えていただいたことを1つも取りこぼすことなく、夢が実現するまで常に心の中に持ち続けていきたい。

自分にも無限の可能性を感じ、将来への期待感が大きく膨らんだ、よい研修旅行となった。

American
Dream!!

第2面に続く)

☆平成29年度学生募集

「後期AO入学選考」がスタート!

企画広報室 小林 昌人

明けましておめでとうございます!冬休みは有意義な時間を過ごせましたか?例年、長期休みで生活のリズムが崩れ、体調にも影響が出る人がいます。体調管理に気を付けて、新しい年をスタートしましょう。今年は「酉(とり)年」です。「酉」という字は、収穫した作物から酒を抽出するという意味や、熟した果実を収穫できる状態であることから、「実る」ことを表します。そこから酉年は、「実りのある」「成果の出る」年と言われています。皆さんも、これまでの成果を発揮できる1年になるように、頑張りましょう!

さて、1月6日(金)からは、「後期AO入学選考・B日程」のエントリー期間となっています。AO入学選考は、学力だけで結果を求めるのではなく、オープンキャンパスや進路面談等で多面的、総合的に評価する選考方法です。高校の後輩や家族・知り合いで、福祉医療や電子情報分野に興味がある方、まだ進路に悩んでいる方がいれば、ぜひオープンキャンパスと併せて後期AO入学選考についても教えてあげてください。皆さんもそうだったように、不安を感じながらの受験生もこれから来校します。そうした時こそ、皆さんが日頃から心がけている「元気な挨拶」で迎えて、不安を取り除いてあげてください。

企画広報室では、様々な方法で受験生や高校の先生に向けて、本学の良さをアピールしています。しかし、本学の良さを一番知っているのは、学生の皆さんだと思います。本学で「学んでいること」、「目指していること」、「普段の学校の雰囲気」など、何でも構いませんので、皆さんの後輩やオープンキャンパス、入学選考で来校する高校生に伝えてあげてください。様々な経験をしている皆さんだからこそ伝えられることがたくさんあると思います。1人でも多くの方に中村学園の良さを感じていただき、仲間が増えるように一緒に盛り立てていきましょう!

入学選考・オープンキャンパスの日程は、次のとおりです。

平成29年度学生募集 入学選考日程

*後期AO入学選考

・B日程 エントリー期間: 1/6(金)～ 2/27(月)
選考結果: 3/10(金)までに発送

*入学選考日

第4回入学選考 2月18日(土)
他、「募集要項」をご覧ください。 ※出願は前日15時まで

*オープンキャンパス、学校・入試説明会

・1/21(土) 13:15-15:30
・2/9(木) 17:00-18:30 ・3/4(土) 13:15-15:45

視野を広める!!グローバルな視点を得た海外研修

ゲーム応用学科 1年 今野 向陽

4泊6日の海外研修はとても良い経験であり、アメリカのIT事情やアメリカがどのような場所なのかを知るきっかけになりました。

私は最初、アメリカへ行くことに不安しかありませんでした。しかし、現地に到着してから、その不安は解消されました。様々な場面で英語を話す機会がありましたが、現地の方々から聞き取りづらい英語を話してもしっかりと聞いて優しく対応してくれ、時には困っている私を助けてくれるなど、心が温かくなるような振る舞いで私たちを受け入れてくれたからです。

6日間の日程でしたが、シリコンバレーで山谷様からIT業界の動向を聞くなどして、私の考えに大きな変化がありました。これまで自分が見てきた世界がどれほど小さかったのか思い知り、海外へ渡航することは自分の人生の「ターニングポイント」になると感じました。これからはアメリカに限らず海外へ行き、「もっと世界を見る必要がある」と思いました。

IT技術は今や世界中あらゆる分野で必要とされ、未来の生活を便利にしていくには必須の技術です。日本で高度なIT技術を学び、蓄えた知識・技術を持って世界へ羽ばたき、活躍できる人材になりたい、と思いました。この海外研修で学んだことを活かし、これからの学校生活では、「失敗を恐れず、何事にも挑戦する」というチャレンジ精神を大切に、日々、自分自身の持てる力を向上させるように頑張ります。

静岡福祉医療専門学校

～アメリカ合衆国ハワイ州（オアフ島）～

12月14日(水)～12月18日(日)

《研修概要》

- ・ハワイ大学マノア校グローバル人材育成研修
- ・「Project Paradise」、介護医療保育施設研修

グローバル社会で求められる様々な知識を獲得し、より良い未来の創造を語り合う!

2年部学年主任 子ども心理学科2年担任 井上充子
福祉医療4学科の2年生が参加。事前の学習により、それぞれが研修旅行の目的を明確にして臨み、自主的な参加のできた研修修学旅行となりました。自己管理と協力姿勢も個々が自覚を持ったおかげで、全員無事に、そして、実りの多い全日程を終えることが出来ました。

ハワイ大学での研修は、自律的に学ぶ「アクティブラーニング」の学習方法で“ハワイで世界と向き合い未来と出会う”をテーマに進められ、現地大学生のリーダーのもと、グローバル化を象徴するハワイで多文化社会の利点や課題について考える場を与えられ、興味深くライフスタイルや文化について学びました。その後「描いた未来を実現するためにできること」を語り合い、自己実現に向けて今何をすべきで今後何をすべきかを意見交

換しました。拙い英語力でも思いがあっても伝わらないもどかしさや相手の話が理解できない悔しさを実感しながらも、積極的にコミュニケーションを取ろうとする学生たちの前向きな参加態度に感心させられるとともに、inputだけに留まらずoutputの難しさや大切さを肌で学べた研修となりました。また学科毎の施設現場研修では利用者さんや子ども達と直接触れ合う機会を持ち、今後、社会に出て医療・福祉・幼児教育等の場で働く学生にとって貴重な体験で、この学びは大いに役立つことと思います。また、寝食を共にし、協力しながら行動したことで友人との絆も深まり、ハワイでのよい思い出もできたことでしょう。



このような貴重な機会を与えてくださった理事長・校長先生をはじめ諸先生方、保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

オープンで積極的な姿勢に刺激を受けた研修

総合福祉学科2年 林 玲奈

今回の海外研修修学旅行では、普段の生活では体験できない貴重な経験が多く、充実した研修となりました。

ハワイ大学でのグループワークに備え、自分たちの言葉で説明できるよう、改めて日本の保険制度など事前学習をして出発しました。英語でのコミュニケーションが図れるか不安でしたが、現地の学生とジェスチャーや知っている英単語を使って一生懸命コミュニケーションを図る中で、ハワイから見た日本や、ハワイの文化など様々なことを学ぶことができました。

介護施設見学では、利用者様とも交流させていただきました。日系の利用者様も多く、日本語での会話が可能な方も多く利用されていました。緊張ぎみの私たちを優しく笑顔で受け入れてくださいました。

自由行動では、買い物をするとき、道を聞く際に現地の人たちと英語で話さなければならない場面があり、戸惑うこともありました。とても貴重な経験となりました。

今回の研修でかかわった現地の方々から、日本人にはない、オープンで積極的な姿勢に刺激を受けました。私ももっと自分から発言し、人前に立てるような積極性を身に付けたいと思いました。研修での体験を活かし、次年度での実習や地域活動に積極的に取り組み、実りあるものにしていきます。

「伝えよう」という気持ちで、交流しました

2年医療情報秘書科 堀井 未帆

ハワイ研修修学旅行を終えて、日本とハワイの文化の違い、考え方の違いを学ぶことができました。



ハワイ大学における研修では、現地の学生と交流する機会がありました。私は英語が話せないため、コミュニケーションを取ることができなかったが、私達

の会話に必死に耳を傾け、理解しようとしてくれていてとても嬉しかったです。分からない英語が多かったのですが、どうにか身振り手振りを交えてお互いの想いを伝え合うことができました。今回、相手を思いやりながらコミュニケーションを取るということを身をもって体験し、言葉が通じなくても伝えようという気持ちがあれば相手に伝わるのだということ学びました。

この研修旅行を通して、クラスメイトや先生方、また現地の方との関わりを通して、一生の思い出に残るとても有意義で充実した5日間になりました。ありがとうございました。

「自己PR = 経験のストーリー化」は、「ログライン」を参考に

進路室長 橋野 幸男

私は、「履歴書」・「面接」での、『自己PR』・『学生時代に力を入れたこと』のエッセンスは、「自分の成長物語」だ、と考えています。つまり、「①まだ未熟だった自分が → ②何かをきっかけに、ある取り組み・行動を開始し、それを継続して【経験のストーリー、エピソード】 → ③自分の「強み」となる行動習慣・他のシーンでも再現できる力を獲得した【アピールポイント】 → ④その力を入職後も機能させ、仕事で成果を上げる」というラインです。

そこで、参考となる話を紹介します。フジテレビの名物プロデューサー・栗原美和子さんの著書『テレビの企画書～新番組はどうやって生まれるか?～』(2015.4発行)に、「ログライン」の話がでてきます。(以下、著書内の文から抜粋)

ハリウッド映画界では、「コンセプトを2行で伝えられない映画はヒットしない」と言われている。脚本家やプロデューサーが持ち込む企画書のトップページには、2行のログライン(あらすじの前に付くキャッチコピー)が書かれ、その2行で企画の可否が判断されるのだ。例えば…最近ヒットした『ゼロ・グラビティ』は、「生きることに絶望した女性宇宙飛行士が、宇宙で事故に遭遇し、地球への生還を目指すうち、生きる自信を取り戻し、帰還する」だった。私もドラマ部に異動した直後、上司からそのような教えられた。「一言で説明できないような企画はダメだ」と。

また、この「ログライン」については、大岡俊彦さん(映画監督、CMディレクター)も、次のように説明します(以下、Web「大岡俊彦の作品置き場」の中から抜粋)。

あらすじを書くのではない。話のコンセプトを書く。簡単なテンプレを、**Aな主人公が、Bに出会って、Cする話**と書くとよい。Aは、主人公の問題点や弱点、あるいは主人公の立場的に異質な性質。または、異物Bと真逆なAを書いておく。

Aと出会う異物Bは、人物でも、陥ったシチュエーションでも、打破すべき状況でもよい。それに会った主人公が何をやるかが、Cである。例をあげよう。『マトリックス』: この世界は夢ではないかと疑うハッカーが、謎の男に出会い、本当の世界で救世主になる話。…

出会ったあとに、主に何をやるかが、Cの要素だ。僕の言う、「動き」である。…センター・クエスチョンは、「主人公はCすることが出来るか?」である。障害は暗示されている。内的な障害はAに、外的な障害は異物Bに。それを乗り越え、克服する動きがCであり、テーマなのだ。

皆さん、これらを参考に自身の「パーソナル・ヒストリー」を振り返り、「自分の成長物語」を抽出してください。そして、大岡さんが述べている「ログライン」の**テンプレート**を参考に、「相手がうなずけるストーリー」を心掛けてみてください。

